


地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙２）

団体名	一般社団法人駄可笑屋敷プロジェクト
-----	-------------------

取組の名称	駄可笑屋敷プロジェクトかわさき
実施場所	1955（川崎市中原区上平間1955）
対象地域	上平間
対象地域の特色・課題	近年のマンション開発や若い世代の移入によって住民構成が変化しつつある一方、全体的には高齢化も進行し、単身世帯や核家族世帯が増加している。子育て関連の施設としては、小中学校や認可保育園、幼稚園が一定数整備されているが、共働き世帯の増加などにより、「子育ての負担感が大きい」「地域との接点が少ない」といった課題がある。また、町会・自治会への加入率や子ども会の会員数が減少していることから、子どもを地域で見守り支える風土が十分に機能しにくい状態が否めない。子どもが気軽に立ち寄れる居場所が少なく、大人による見守りや世代間交流の機会も限られているため、結果的に子どもが安心して過ごせる環境が不足していると考えられる。
取組の趣旨・目的	<p>(1) 趣旨</p> <p>「駄菓子屋」を拠点とした子どもの居場所づくりを通じて、子どもたちが自由に交流し、学び合い、安心して過ごせる環境を提供する。あわせて、地域住民や商店街と大学生が連携することで、世代間・地域間のつながりを強化し、地域全体で子どもを見守り支える取り組みを推進する。</p> <p>(2) 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの自己肯定感・自己有用感の向上</li> </ul> <p>子どもが主体的に「やりたいこと」「学びたいこと」に取り組む機会を提供し、子どもの声を尊重する居場所を整備す</p>

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>地域コミュニティの再生・活性化</b> 駄可笑屋敷を起点に地域住民との交流機会を創出し、核家族化や共働きによる孤立感を緩和させる。</li> <li>・ <b>持続可能な子どもの居場所ネットワークの構築</b> 学校や自治会、商店街、地域団体と連携し、複数の拠点で多様な活動を展開することにより、街全体で長期的・継続的に子どもを支える仕組みをつくる。</li> </ul>
<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>① 駄可笑屋敷（駄菓子屋兼子どもの居場所運営） 放課後の時間帯を中心に、誰もが気軽に立ち寄れる「駄菓子屋」を運営し、子どもにとっての交流・学び・遊びの場を提供する。必要に応じて、大学生ボランティアが宿題や勉強のサポートを行うほか、「何をしても良い、何をしなくても良い」気軽さを大切に、子どもたちが自分のペースで過ごせる居場所をつくる。</p> <p>■ スケジュール 2025年9月20日開始 週4日の開所（毎週月/水/金/土：13:00～17:00）</p>  <p>② 地域向けイベント 商店街や自治会の祭り、地域主催のイベントなどに参加。また、クイズラリーや探求ワークショップなど地域住民や子どもたち向けのイベントの企画・運営を行うことで、世代や属性を超えた交流を促進する。</p> <p>■ スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月24日 「地域交流マーケット」への出店 → イベントに参加した子どもにバルーンを配布</li> <li>・ 8月第1～第4土曜日 「平間銀座サマーフェスタ」への出店</li> </ul>

	<p>→子ども向けの「射的」と「駄菓子販売」を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月 27日 「こどもまつり」への出店</li> <li>→平間こども文化センター主催の「こどもまつり」にて、駄菓子販売を行った</li> <li>・ 12月 12日/13日 「平間公園なかよしフェスティバル」への出店</li> <li>→平間小学校の5・6年生とコラボ出店、企画から当日の運営まで小学生と協力し実行</li> <li>・ 12月 21日 「クリスマスイベント」の開催</li> <li>→クリスマスパフェづくり、シャンメリー・ココアの提供など、季節のイベントとして実施</li> <li>・ 2月 13日 「初午イベント」への参加</li> <li>→弥栄稲荷大神にて開催したイベントにて、参加した子どもにお菓子を配布、平間銀座商店街と協力して行った</li> <li>・ 2月 22日 「バレンタインイベント」の開催</li> <li>→当日限定のおみくじや、バレンタイン商品の提供などを実施した</li> </ul>		
<p>参加者の年代</p>	<p>未就学児 小学生 中学生</p>	<p>定員 (1回あたり)</p>	<p>なし</p>
<p>実施頻度</p>	<p>週 4 日</p>	<p>活動日数 (年間)</p>	<p>120 日</p>
<p>スタッフ体制</p>	<p>通常の居場所運営では、最低2名以上の大学生スタッフが常駐。イベント時や繁忙期は5名程度のスタッフが参加。全体で約20名の大学生メンバーがシフトを組み運営。</p>		

<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>平間銀座商店街振興組合</b> 商店街主催イベント（サマーフェスタ、初午等）への企画・運営・広報協力。 → 実行力・人手不足の課題に対し、大学生が実務を補完。初午イベントでは子ども向け駄菓子配布の準備から当日の実施までを一貫して担当した。</li>   <li>・ <b>川崎市立平間小学校</b> 「総合的な学習の時間」を通じた共同企画およびイベント実施。 → 「平間公園なかよしフェス」にて小学生と大学生が企画・運営を協議し、実施。また、防災学習における小学生の広報物掲示をするなど、児童が地域と繋がり学ぶためのプラットフォームとして連携。</li>   <li>・ <b>上平間第一町内会</b> 地域美化活動への参加および町内会行事への協力。 → 美化活動への参加に加え、防災フェアにおいて参加者へ配布する駄菓子の手配・提供を当団体が担当。また、イベント当日の準備や広報協力なども行った。</li> </ul>
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li><b>1. 子どもの成長・意欲の向上と居場所の確立</b> 駄菓子屋という「ななめの関係（親でも先生でもない大人との関係）」を築ける居場所を提供したことで、学校や家庭以外のサードプレイスを確立。多くの子どもたちが利用し、大学生や地域の大人との日常的な交流を通じて、多様な価値観に触れる機会を創出した。これにより、孤立感の解消や、自己肯定感を高めるきっかけとなった。</li>   <li><b>2. 世代間交流による地域コミュニティの活性化</b> 親しみやすい拠点を介して、子どもから高齢者まで幅広い世代が混ざり合う空間を創出。商店街や町内会と連携し、地域行事（初午イベント、防災フェア等）へ積極的に参画・企画協力したことで、地域の人手不足の一助となった。また、住民同士の「顔の見える関係」が強化され、地域コミュニティの結束力と安心感を高めることに寄与した。</li> </ol>

### **3. 大学生の参画による持続可能な地域モデルの構築**

大学生の実行力・企画力を商店街や町内会の活動に注入することで、地域の課題（人材不足、実行力不足）を直接的に解決するモデルを提示した。日常的な意見交換から現場のニーズを汲み取り、居場所の在り方を随時アップデートしていく手法は、他地域でも応用可能な「学生主導型の持続可能な地域づくり」の先駆的な事例となり、多主体との協働体制を盤石なものとした。